曆略註

二 5
2239

劉卜子先生講釋乃席毋くかたらふ益
て聽受ものまなび日取出同ちがひ多くしるす毒
同書のたがうとうれ本なを

曆略註

此小冊ハ曆乃表ようがうれ来をこゝに記
あらゆへこゝろとあらべ窓く見るときハ月丸のよう
なし其外伝来にもとゝ明らうあ志ゝ方

昭和十三年九月二十三日
林繁未夫氏寄贈

二 2239

「大日本は年の名なれども年紀なり」

文化元年きのえねの寛政暦

「天子より勅定の名なり」

「二十八宿の内なる年にあたる宿なり」

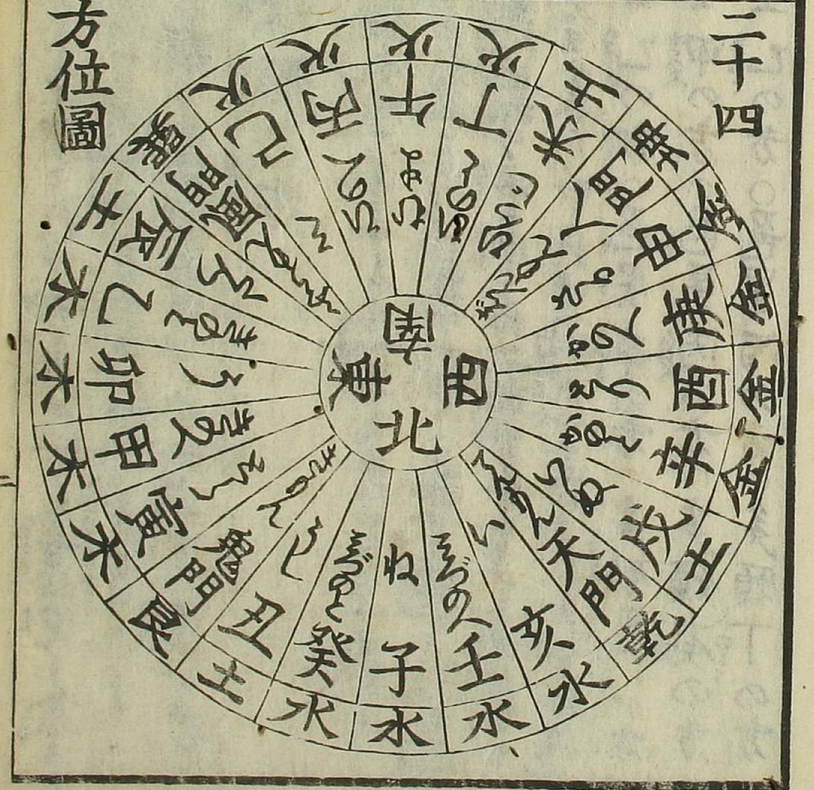
翼宿 値年 凡三百五十五日

是までの暦は寶暦四年に改まる甲戌元暦といひ奉れ九月蝕月蝕節氣共
みゆるいまだ遠ひあるゆゑ新に寛政九年に改正有べく去る年の十月
天子へ奏し奉り名付寛政暦と称し一賜ありしよりて暦の事はすべて
儀を江戸表へ暦問屋十二軒へ申渡し作付用板いたしたるなり
外にあて八切さうの大小のたぐひまでも自分に板行いたせば宜敷
紫宸殿に於ゆゑ暦は一ヶ所の板本よりこれを御奉行様へ
とべ一枚ひきとめおきたるものなり

三鏡寶珠形

三鏡寶珠形とは
三鏡に紫星あり天星
紫女亀星玉女の類
玉女ひるまは年徳神
あれば年ねよりの星あり
同出産星ゆゑ
みてよ
こはけだわみ玉あり
あるなり其方角は
右にあり
ふたりやうはたらく

二十四方位圖



右は四方ゑの八幡のそばにあふ出くこれある方角なれども暦紙見てゝ毎日八方よりかこれと用ひざるゆへ方角の吉凶ぶはなぎる遠あるゆゑまつて此方は置とゝかく顕しまゆへ公園紙とゝく学て方角の吉凶とかんべ

○三鏡寶珠形乃方

○天星玉女の方諸願成就乃方みして何事もさつなる紀文なり
○色星玉女の方新しき衣服を移同載ゆを向くしよう後の納へゝし正直と
○多願玉女の方旅立門出祝の事を向く右ゝ諸事出とゝ出ふ
右三鏡方は所庭八毎月かゝれゆへ則たゞ月ゝくこれと出べし

正月 ○天星 乙の方 ○色星 辛の方 ○多願天門の方
二月 ○天星 甲の方 ○色星 丙の方 ○多願 庚の方
三月 ○天星 乙の方 ○色星 丙の方 ○多願 丁の方

四月 ○天星 丁の方 ○色星 癸の方 ○多願天門の方
五月 ○天星 甲の方 ○色星 丙の方 ○多願 庚の方
六月 ○天星 甲の方 ○色星 乙の方 ○多願 鬼門の方
七月 ○天星 人門の方 ○色星 風門の方 ○多願 鬼門の方
八月 ○天星 壬の方 ○色星 天門の方 ○多願 風門の方
九月 ○天星 辛の方 ○色星 壬の方 ○多願 癸の方
十月 ○天星 人門の方 ○色星 風門の方 ○多願 鬼門の方
十一月 ○天星 壬の方 ○色星 人門の方 ○多願 鬼門の方
十二月 ○天星 庚の方 ○色星 辛の方 ○多願 癸の方

右ゝ其月の節より次の月は其の月の日まで一ケ月として用ひべし 翌月より翌月までを用ひべし こゝ仲伝の節切とゝ右三鏡は方ゝたとゝ鬼門金神ふさがるとも方みても用ひくさらるゝ

歳徳あたの方よろづ吉

此方八年に十年の方と用ゆる所の便り陰陽の年きのえとのとの年は甲の方を向ひて法事さろうなく大吉の方なるゆへよろしきいみ

○金神の方

此方八十二年の方なれば必ずゆくべきなり此方を用ゆるとき必ず禍をなすべし

○八將神

大歳の方

此方八年徳ある所の便り但し方ふさがりてよろしき方なり但し方ふさがりてゆくべからず

大将軍の方

此方八三年の方なれば不在なれば門戸を塞ぎ金神を祭りはぐくみてゆくべし此方をゆくべからず

大陰の方

此方ふさがりて養成す秋八月の方なり故に万物みな此方にしたがひて命令の事なり婦人ふさがりてゆくべからず

歳刑の方

此方ふさがりて殺伐の事なり故に草本とくゆるべからず

歳破の方

此方ふさがりて殺伐はなはだしきなり故に武器をつくるべし

歳殺の方

此方ふさがりて武器のけがれをきらひ此方にゆくべからず

黄幡の方

此方ふさがりて大なる便りなり故に文書を用ゆるべし

豹尾の方

此方ふさがりて大ふべんなり故に男はなんぞう便毒女はうちるぶ血をもつて其外下部の事をなすべし

○土公

春はうま　夏はうしど　秋は井　冬は竈

春は竈の後に張ふさぐべし○夏は門口の石をすべし○秋は井戸を塞ぎゆへなし○冬は庭をふさぐべし

右土公の在る方とあらば破れあるべし　其時は土公の在る方をとうぐろさんと思ふ遊行の日を用ゆべし　則左に記す

甲子の日より己巳の日まで六日の内　北の方に遊行す　小土
庚午の日より丁丑の日まで八日の内　東の方に遊行す　大土
戊寅の日より癸未の日まで六日の内　東の方に遊行す　小土
甲申の日より癸巳の日まで十日の内　南の方に遊行す　大土
甲午の日より己亥の日まで六日の内　南の方に遊行す　小土
庚子の日より丁未の日まで八日の内　西の方に遊行す　大土
戊申の日より癸丑の日まで六日の内　西の方に遊行す　小土
甲寅の日より癸亥の日まで十日の内　本所に居る　大土
右年月日時に限る　大土と云遊行の日を小土と云　星ふよりく大土
其在る所を知らんとすることを思ひ産の〳〵もの湯とすることを思ひ
少人桂枝の日成湯を作くり成湯を作くりすべし　右遊行の日を産
を知らんとおもひ在る土とあるを思べし

○鬼門方

乾の隅を乾門と云　坤の隅を坤門と云　巽の隅を巽門と云　艮の隅を艮門と云　乾坤巽の方を三門と云なり
暦に記す所の鬼門の一方なり　此方いろいろ悪き方なれば
家作りする　ホウ　ホウ　ホウ　悪きなり　若山方とあらば
悪きなり　厠　塵塚　ホウ　山方　三方　深く忌べきなり　これを適る人なし

○月建　并　北八宿　月　月　値　偶　たゝ八宿　當申は年ゆえ

正月大　建　戌寅　心宿　値月　胃宿　土曜　値朔日
戌寅ゆえ建　ゆえ斗乃星の内　心宿　二月　三月　十二
月まで　月　心宿　月　値　昴八九八宿の内　心宿　星　正月
ある　胃宿　北八宿の内　土曜　七曜星の内　土曜　星　朔日
なる　二日　三日　なる　其日　何宿　の曜　なる　定む　昴
人生れ日　年命宿　年命曜　右北八宿

東　角　亢　氐　房　心　尾　箕　北　斗　牛　女　虚　危　室　壁

西　奎　婁　胃　昴　畢　觜　参　南　井　鬼　柳　星　張　翼　軫

七曜。日曜星。月曜星。火曜星。水曜星。木曜星。金曜星。土曜星なり

閏八月小　隨節用之　柳土なり

節と中とを本月ふぐりに有て閏月丑今一昼ふるとく隨節用之とあるを一体なるに其月の節より次の月の節までと月をもとゆへ閏月ハ其内ふりあゆへ用ひざるなり柳土曜ハ初日の宿曜と去るべし

○中段下名目の日

吉書始

是ハ人〻讀書をはじめ最上の室かたゆへ丑日ふぐゆへ丑日ふぐでこれまを書ひらくて其年ハ惠方へそなへまうしれゆへくて元日ふぐ日ふ十五ふあるを二日ふ吉書始とあるゆへ其日ふ手ぞろ紙をもとべし

八専

壬子の日ふ八く癸丑の日ふ八く同日四日ある也八専なり八日ハ陰陽ふ八ゆへ此日ハ家作ハ建ふ婚礼家来とかゝえふ又賣買をか物成仕ふ也もろ事ふ悪いなべし

十方暮

甲申の日ふ八く癸巳の日ふ八くれすぐく十日のあいだ此間ハ十干十支相尅して天地八方をふ暮やらるゆへふ十方暮と

天一天上

天一星と又空ハ方とやうなるハて天上ふ日也水の神なる北辰の眷属なり

甲子日ふあるゆへ天一星ハ方へ向ひて斉ふ方とべし其ふ日を射喧花ハ倫ふ

門出ふ吉ふ此日ハ何事ふ吉ふ

天一天上の日より十六日の日ふ天上ふ在ゆへて十七日目巳酉の日ふ下東へふぐりたまへり

己酉日より甲寅日まで六日の日丑寅の方に居る

乙卯日より己未日まで六日の日東卯の方ふ居る

庚申日より乙丑日まで六日の日辰巳の方ふ居る

丙寅日より庚午日まで六日の日南午の方に居る

辛未日より丙子日まで六日の日未申の方ふ居る

丁丑日より辛巳日まで六日の日西酉の方に居る

壬午日より丁亥日まで六日の日戌亥の方ふ居る

戊子日より壬辰日まで六日の日北子の方ふ居る

癸丑日より癸巳日ハ天上ふ在ゆへて戌申の日まで十六日のあいだ天上ふ在まゝ也何事ふ吉ふ

ひぐん

此日二月中より六日まへと八月中より一日まへとぐんと合ゆり
もゝて七日のうつりかわる間に昼夜とゝぶんの時節なれば人み
五穀をとゝのゝ事なべし　但しとゝのゝ

杜月

二八月あるゝこれわるゝ二月中の日と八月中の日とちゝうちの
の日あり此日ハ農民ハ主の使成ゝ祭礼日なり此日より雨
物ゝ悪ゝ年ゝ有ゝ　但しゝ日ゝ種とまゝ秋の社日のゝ
苗ゝ植ゝるあり　但しゝ日ゝ

八十八夜

四月節の日より八十八日目あり草木ゝ芽ゝ出ゝ霜ゝ降ゝ
で植ゝるゝゝゆゝえゝ種の極ゝ早ゝ植ゝ方ゝ　べし

入梅

五月節の後ゝ五の日ゝ入六月節のゝ中ゝ五の日ゝ
あゝれすゝぐゝ三十一日ゝ内ゝ此ゝ六ゝ微雨ゝ降ゝ湿ゝ
ふゝるゝ雨陣ゆゝ人ゝ身ゝ衣ゝ大ゝ物ゝ衣服書物ゝ
すゝぐゝ微を生ゝ成ゝ此ゝ年ゝ　べし

半夏生

夏の中ゝ日ゝ半ゝ夏ゝ生ゝ草ゝ毒ゝ草ゝ生ゝ成ゝ節ゝ　此ゝ日ゝ
農民ハ田と植ゝ　べし

初伏 中伏 末伏

此三日ハ夏の火と秋の金と相対する日なれば人の身
ゝ悪ゝ成ゝ　べし

土用

春夏秋冬ゝ各ゝ十八日ゝ　此節に
ゝ物ゝ成ゝ　また又柱ゝ建ゝ井ゝ掘ゝ　堤ゝ　人
ゝ生ゝ　山ゝ　外一切ゝ成ゝ　べし

二百十日

正月節ゝ二百十日目ゝ　此日ハ秋の氣すゝぶんゝ
ゝて金氣ゝ盛ゝ　風ゝ吹ゝ時節ゝ　此日ゝ風雨
あゝれゝば稲ゝ実ゝ　べし

節分

立春ゝ日ゝ　此節ゝ氣ゝ　青陽ゝ氣ゝ
時節ゝ陰氣ゝ退ゝ陽氣ゝ　人ゝ
大育ゝ　生ゝ　陰氣ゝ退ゝ鬼ハ陰の訓ゝ

○中段

十二直といふことは内ゐく第一さし用ひべき日ことをあり

建
○吉

○大吉なり故に神をはらひ元服柱立む糸上金糸とぎそめあらしき衣服とそめそめきびらはさらかし
●たゝうじ義乃門より初出す始毎のはじめ水わし

除
●半吉

○沢沐とそしひ菜とのこ和たひまゝ井わりよし
●婚礼夫いひ妻あひ初ことばつひあり金銀とぬれ水をわし

満
○吉

○まさはし京びこん礼げんぶくたゝ糸まゝ水万よし
●たゝうゝかし

平
○吉

○家のえはまし物をのこむれ水よしあし
さうなし
●川渡成ゆゝ弁ちをうごをあしあし
○家ばうはまし物けんぶく婚礼賣買事用ひく

定
○小吉

●沂祭夏出行草木植えあしあし

執
○小吉

○こん長たゝ糸まゝ井わり家作まさうかし
●金銀水いこ寸ふあし

破
●凶

○人うゝ理屋成いひいこ出入事をれ水八万よし
●神成まうとこん長さはしげんぶくたゝ糸まゝ金
衣一切あし

危
●凶

○家にくをたゝ糸まゝ倒成つくを神をまうゝ水成きう
婚礼衣水万よし
●こへのびう船のをまを外夜れ水わし

成
○小吉

○種まゝ水ん長れ家づくりはさまゝ事用ひて万さうかし
●をもう事ふいあし

納
●半吉

○衣くゝあ宝物貴いを家づくりはさまゝ事さうかし
●神成まう実婚あひ初れ水ふぐあし
○門をうて井成わりたゝ糸まゝ家つくりさはこんまん

開 ◐半吉
元服万ものかたりあり。
◐葬礼おすべく不祥の事あり。
○金銀をおさめ穴ふるに墓をほるを厠をつくれば

閉 ●凶
月ゆるしにより
●家ほくをみハ針灸ともに事ゆどあり。

○下段 右の中だんと世ハ隙もなくよくく見あはせべく
その日乃吉凶ふさぐべし

天赦日
此日ハ極上大吉日なる由なる暦乃中ハ第一とあり一年
ハ五日ら六日ある日なる中ハ此乃日ばかりあるべくなれば天しゃ日
ばかりハ一切万事ものみさるべきなり大吉日なり

大明
上乃吉日なり家作つくり出ばこんれん法事さらなる
なり但し外の凶日と月日なるべ中の吉日なり

天恩
天ら万物成長しるし給ふ日なるゆへ万事さらなる
さらなる吉日なり但し外の凶日と月日なれハ中の吉日
となれなり

母倉
地ら万物と生ず生ずる日なるゆへ諸事さらなる吉日なり
但し外乃凶日と月日なるべ中の吉日なり

月徳
其月乃徳ものをなさるる日なるべ月くをつゆ故ら万事さらなる
なる吉日なり別して婦人のよろこバ中の吉日なり
と月日なるべ中の吉日なり

神吉
神達祭礼遷宮地ぶしく祈祷まんりてよろしき日なり

鬼宿
此八宿の中乃鬼宿なり鬼宿ハ万物ものゆえ大吉日なり何事成
なりてをさらなり

復日
旅さら金銀と代ゆ出ものより僕ハ人れと後ゆえこれ礼
葬れはまいりべ

重日
ものかくよりゆへ衣服成ものを作成室とりひろめ
吉日なりこれ葬礼種まれ事ハ中ハ吉なり

血忌
おろいのらかたらり針灸治療ハ吉なり

大禍
ものかぶ悪き日なり何ものをなしてを成就せべ吉なり
てはものひとかぶ

狼藉
此日も行るゝしくあしき日なり何ごとなりとも
ちりてとくのいとど百事出あり

滅門
此日小支と合ばゆゑ其家うるぶゆくはてゝむざさあり
右大潮狼藉滅門ハ三箇の悪日なり

天火
棟あげ屋根ふきをまぐ家作の事ハけかるざあしき日
なり外ハさらなし

地火
地形石ぶとえ杉之ゆよふく忌べし特まれ墓所をけき葬礼
ホの事すべて土成うごもとしふハあしゝそ外ハさらなし

歳下食
其年かりて脾胃和せざる日あり依之三日大食大酒
をべゝし不正のものをも食とかずまゝ年ゆをちゆ六日
ある日あり此ゝしるべし

下食何の時
これも脾胃の和せざる時あり故ゆえ此日ゆふ三時
ゆをとあり此ゝしるべし

往亡
ゆゑとあるぶゆゑ様り門いでこん礼ホ法なり
りの成ゆとふあゝ

帰忌
帰家成ゆゑ此ゆゑ様ゆにまゝ又金銀あをかゝつゝ
事ゆハ浄くつむべし

凶會
あしき事ゆのまれとい人日なるハ一切乃事ホ用ひくあしく
さりながら吉日と同日なれハ中の凶日なり

天墓日
其生れの人性
ゆわせて月ゆる
ゆゑ天む日と
いふなり

十二運の内墓乃運ゆあるる日あり人ゆふ地まろ門さて様まれ
墓所をつゝ葬礼ホ事外ち成うごもふ基ゆあゝさろあり
人ゝ生まれ性ゆより考ひあり性ゆちゆゑいさろあり
木性の人ハ丑未の日ハ墓日　火性の人ハ丙戌の日ハ墓日
土性の人ハ戌辰の日ハ墓日　金性の人ハ羊丑の日ハ墓日
水性の人ハ壬辰の日ハ墓日　かくのごとなるひあるゝくなり

受死
くろ日
ゝ中ゆくの大凶日なり故ゆ●かくのごくちゝて善悪
とり不考ちゝて此ゝなりとべゝろく悪日あるゆゑ方ゆ成ホ
よろく諸支ホ用ひるべし

十死
くろ日ホ性ゆきてゝあゝさ日カろこ成ゆ善悪ふちゝあゝ
ざ成ゆ人何事ホも用ひるべゝず

日そく

日そく合朔とひく日と月とうまごちゆくれぜろ下より見て日の下より月の かゝりて過る少日のひろとゝろ巳をけりて 何分の日そくとゝ人月のおより日の出没水越火と越るゆへ 朔あるなり巳日なり

月そく

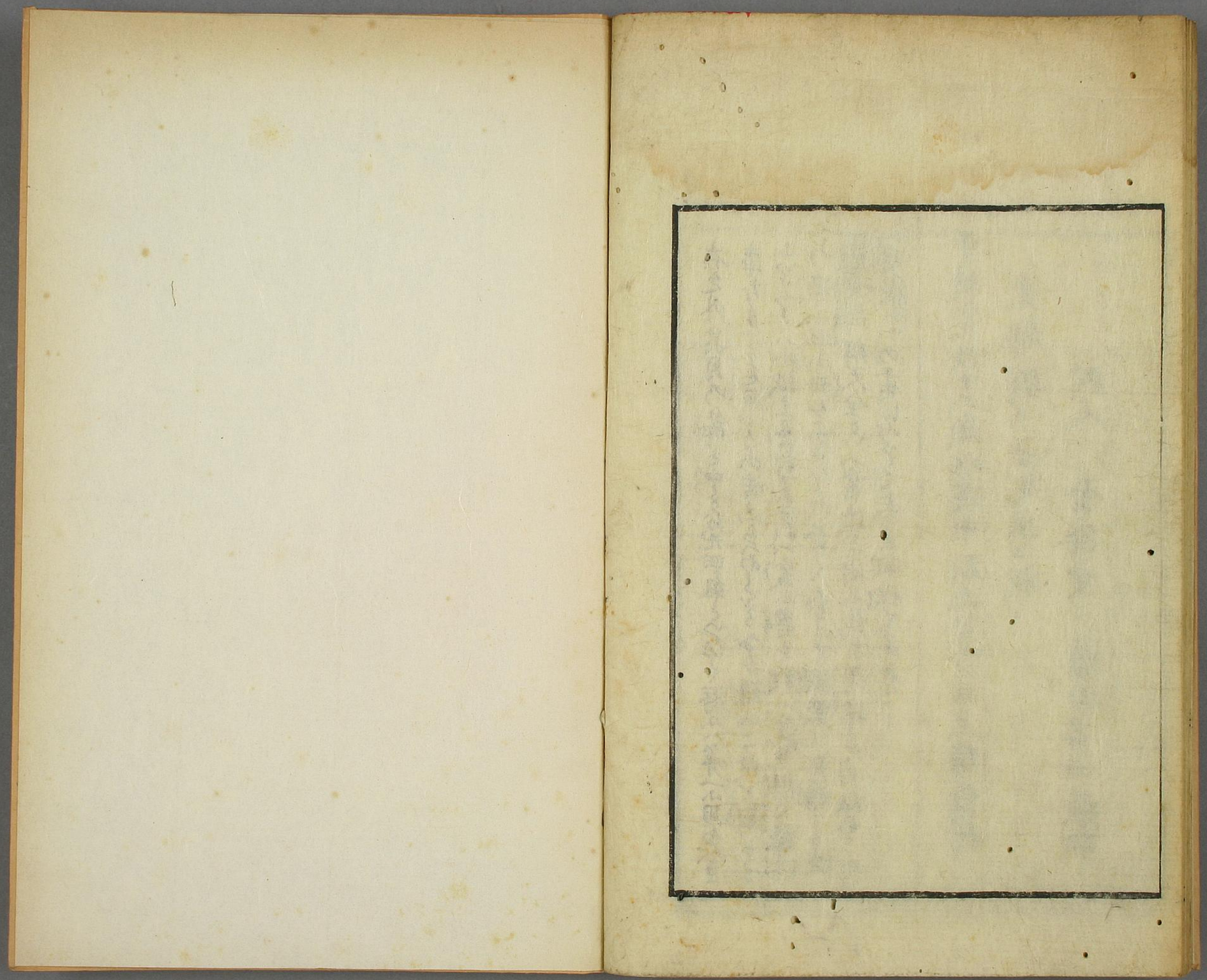
月出ひろりかゝし日の光りのうるく照りかゝゆゆ 月を深と いひく日と月とひひ合ゝ月のめろ出て地のうげ月みうろりて ひろり成表ゝゆゆ月をく成事地のうを月けあ成土越水く 射 まるゆへ出月なり

文化元年出　立表測景定節氣者

ひくのゝく暦の末ゆあるを表とりて長さ八尺の木成立土月中ゝ入月中ゝ示日の景とゝろて暦休とりて日ゝ節と定ゝゆ表と なく景成測ゝ節氣と定ひきゝの定新暦ゝ人出来給てゆ事 天子ゝ妻旧ありて其のち板木ゆ鏤く教回拔合ありて 漕回へ 頒行ゆゝ文化元年ゝ成ゝとあり

右之外其月乃節と中ゝ成先四氣ゝひく暦ゆ八年一ゆ用ゆべき事なりゝを日ごろの吉凶ゆあるゝ殊ゆこゝ彼と解るふゝゝく小紙上ゆ成ゝ成ゝ乃席ゆ此小冊をかゝゝに寄ゝ人ゝ聽受ゝ自得ゝゝ暦日詳解大全ゝ人書近き内ゆ先生著述ゝて出板ありて奥儀へかの書ゆゝゝて ゆ成ゝ成ゝ見給へ

干時寛政十二歳次庚申秋九月廿日上梓發行

東都劉卜子先生に授

門人　金陸堂　藤田善伸藏板